

第1回 建設候補地周辺自治会説明会

(新最終処分場)

日時 令和2年12月19日(土)
午前9時30分～午前11時
会場 マリアージュ

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 説 明

(1) 建設候補地の絞込みの経緯について

(2) 施設の概要

(3) 今後の予定について

(4) 情報提供「施設の整備手順」

一般財団法人 日本環境衛生センター

4 質疑応答

5 閉 会

一般廃棄物最終処分場について

建設候補地の位置図



※ 範囲は確定したものではありません。具体的な施設の配置計画はこれから検討していきます。

1 施設整備基本方針

どのような施設にするかという考えを施設整備基本方針としてまとめました。

(1) 安定性に優れた安全な施設

- ・ 信頼性の高い技術や工法を取り入れ、施設の運営及び維持管理において安定性に優れた安全な施設
- ・ 耐久性に優れ、廃棄物を長期間にわたり安定的に処理できる施設

(2) 環境に配慮した施設

- ・ 環境負荷の低減と施設周辺の生活環境の保全に配慮した施設
- ・ 廃棄物の適正処理や環境保全の啓発・学習にも活用できる施設

(3) 災害に強い施設

- ・ 災害時でも稼働し、災害廃棄物を受け入れられる施設

(4) 経済性に優れた施設

- ・ 建設から維持管理までの費用対効果の面で経済性に優れた施設

2 候補地の絞り込みの経緯

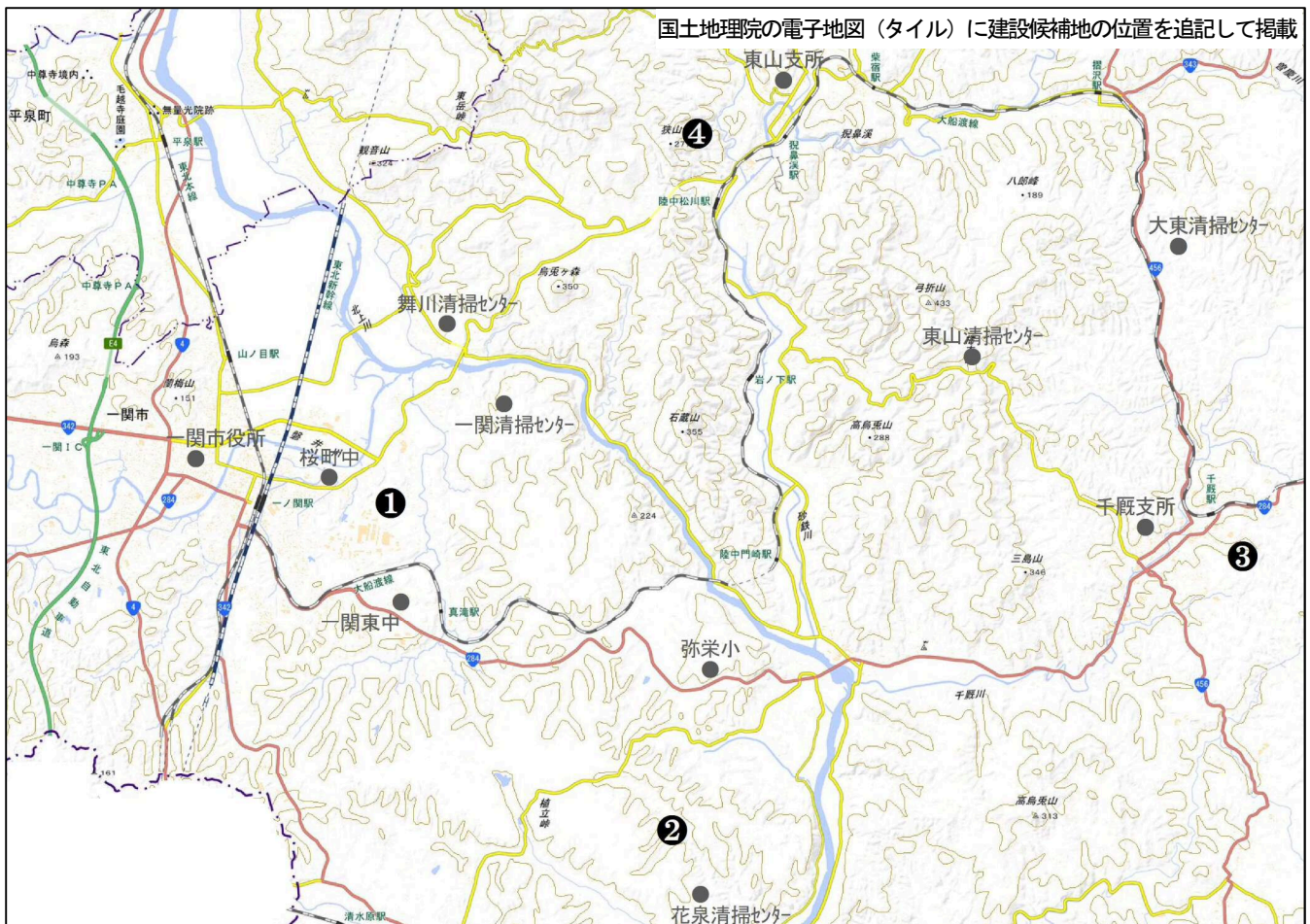
(1) 最終選考候補地の選定

廃棄物処理工学、環境影響評価、地盤工学、動物生態学、植物生態学などの専門家7名で整備候補地選定委員会を組織し、管内全域（一関市と平泉町の全域）から候補地を選定しました。

候補地選定は、3段階で選定を進めました。

区 分	内 容	絞込み
第1次選定	管内全域から、法的規制や災害の影響など不適切と考えられる地域を除外（管内面積：1,319.81 km ² ） 条件：25 項目	268.17 km ²
第2次選定	アクセス性やインフラ整備の優位性、人口分布等の諸条件により、候補地を絞り込む 条件：18 項目	19 か所
第3次選定	技術、環境、経済面などを総合的に評価して候補地を選定 条件：8 項目	4 か所

最終選考候補地の位置図



①	一関市真柴字駒場ほか
②	一関市花泉町金沢字長沢ほか
③	一関市千厩町千厩字北ノ沢ほか
④	一関市東山町長坂字長平ほか

(2) 建設候補地の絞り込み

一関市、平泉町及び一関地区広域行政組合の職員で施設整備検討委員会を組織し、候補地選定委員会で選定した4か所の最終選考候補地から1か所への絞り込みを行いました。

① 評価項目

候補地の絞り込みのため、施設整備基本方針に基づき次のとおり評価項目を設定し、候補地を評価しました。

基本方針	評価項目
① 安定性に優れた安全な施設	受電環境 給水環境 配水管までの距離 亜炭採掘鉱区 湧水・表流水 土質
② 環境に配慮した施設	交通安全 排水環境 景観との調和 自然環境への影響 生活環境への影響 周辺農地への影響
③ 災害に強い施設	想定される自然災害の種類 施設建設の阻害要因
④ 経済性に優れた施設	造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費 運転管理費 運搬費
⑤ その他	総合計画・土地利用計画との整合性 協働による地域づくり 利用者の利便性 想定地権者数 想定筆数 工事環境

※ 評価項目名 は定量評価の項目、 評価項目名 は定性評価の項目

② 候補地の評価

基本方針(評価区分)	候補地			
	滝沢字駒場ほか	金沢字長沢ほか	千厩字北ノ沢ほか	長坂字長平ほか
① 安定性に優れた安全な施設	△	○	◎	
② 環境に配慮した施設	◎	◎	◎	
③ 災害に強い施設	□	□	□	□
④ 経済性に優れた施設	◎	◎	◎	
⑤ その他	○	○	◎	

◎ : 最も優位とした候補地
○ : 2番目に優位とした候補地
△ : 3番目に優位とした候補地
□ : 優劣はないと評価した区分

各区分の評価を総合した結果、優劣がないと評価した評価区分を除く他の評価区分で最も高い評価を得た「千厩字北ノ沢ほか」が最適であると評価しました。

3 施設の概要

(1) 施設形式（案）

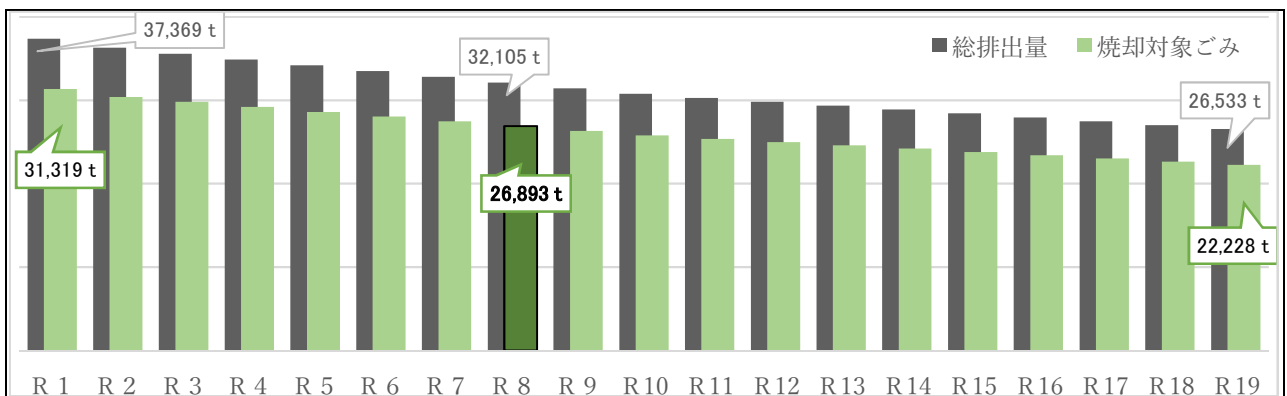
施設形式の検討のため、施設整備基本方針に基づき、次のとおり各施設形式の評価を行いました。

基本方針 \ 処理方式	オープン型	クローズド型
① 安定性に優れた安全な施設	○	
② 環境に配慮した施設	○	○
③ 災害に強い施設	○	
④ 経済性に優れた施設	○	

両施設形式を比較した結果、「**オープン型**」が優れた施設形式と評価しました。

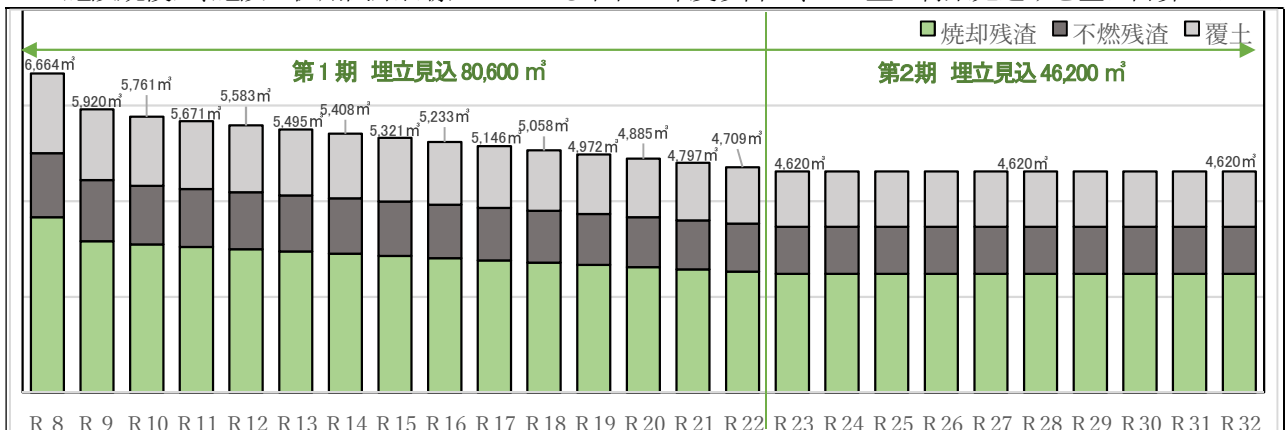
(2) 新処理施設の施設規模（案）

① ごみの総排出量・焼却対象ごみの将来推計



② 施設規模

施設規模は、施設の供用開始目標としている令和8年度以降の、埋立量の将来見込みを基に計算しました。



第 1 期 (15 年間の埋立容量の見込み) : 80,600³
 第 2 期 (10 年間の埋立容量の見込み) : 46,200³
施設規模 (合計) : 126,800³

4 今後の予定

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業内容	生活環境影響調査・基本設計など			建設工事		供用開始

第1回 建設候補地周辺自治会説明会

(エネルギー回収型一般廃棄物処理施設)

日時 令和2年12月20日(日)
午後1時30分～午後3時
会場 弥栄市民センター平沢分館

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 説 明

(1) 建設候補地の絞込みの経緯について

(2) 施設の概要

(3) 今後の予定について

(4) 情報提供「施設の整備手順」

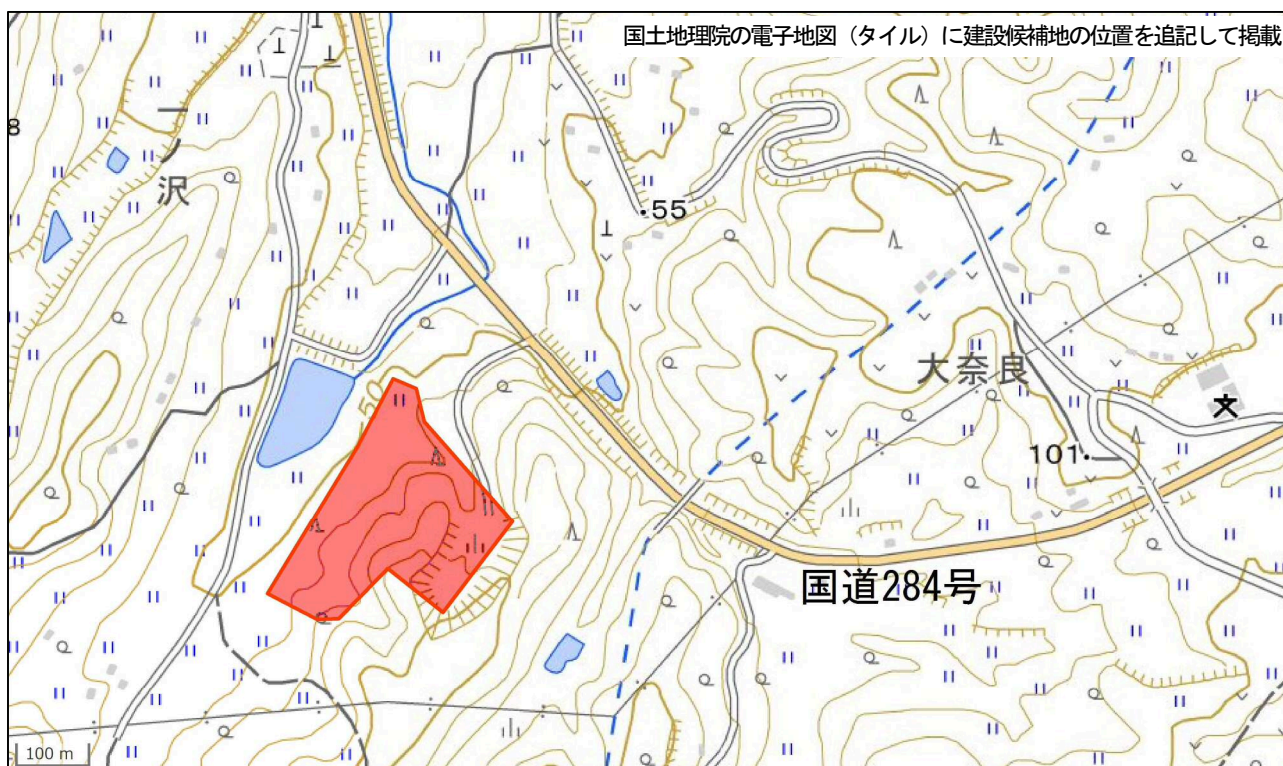
一般財団法人 日本環境衛生センター

4 質疑応答

5 閉 会

エネルギー回収型一般廃棄物処理施設について

建設候補地の位置図



※ 範囲は確定したものではありません。具体的な施設の配置計画はこれから検討していきます。

1 施設整備基本方針

どのような施設にするかという考えを施設整備基本方針としてまとめました。

(1) 安定性に優れた安全な施設

- ・ 信頼性の高い技術や工法を取り入れ、施設の運営及び維持管理において安定性に優れた安全な施設
- ・ 耐久性に優れ、廃棄物を長期間にわたり安定的に処理できる施設

(2) 環境に配慮した施設

- ・ 環境負荷の低減と施設周辺の生活環境の保全に配慮した施設
- ・ 廃棄物の適正処理や環境保全の啓発・学習にも活用できる施設

(3) 廃棄物を資源として活用できる施設

- ・ 廃棄物をエネルギー資源やリサイクル資源として活用できる施設

(4) 災害に強い施設

- ・ 災害時でも稼働し、災害廃棄物を受け入れられる施設

(5) 経済性に優れた施設

- ・ 建設から維持管理までの費用対効果の面で経済性に優れた施設

2 候補地の絞り込みの経緯

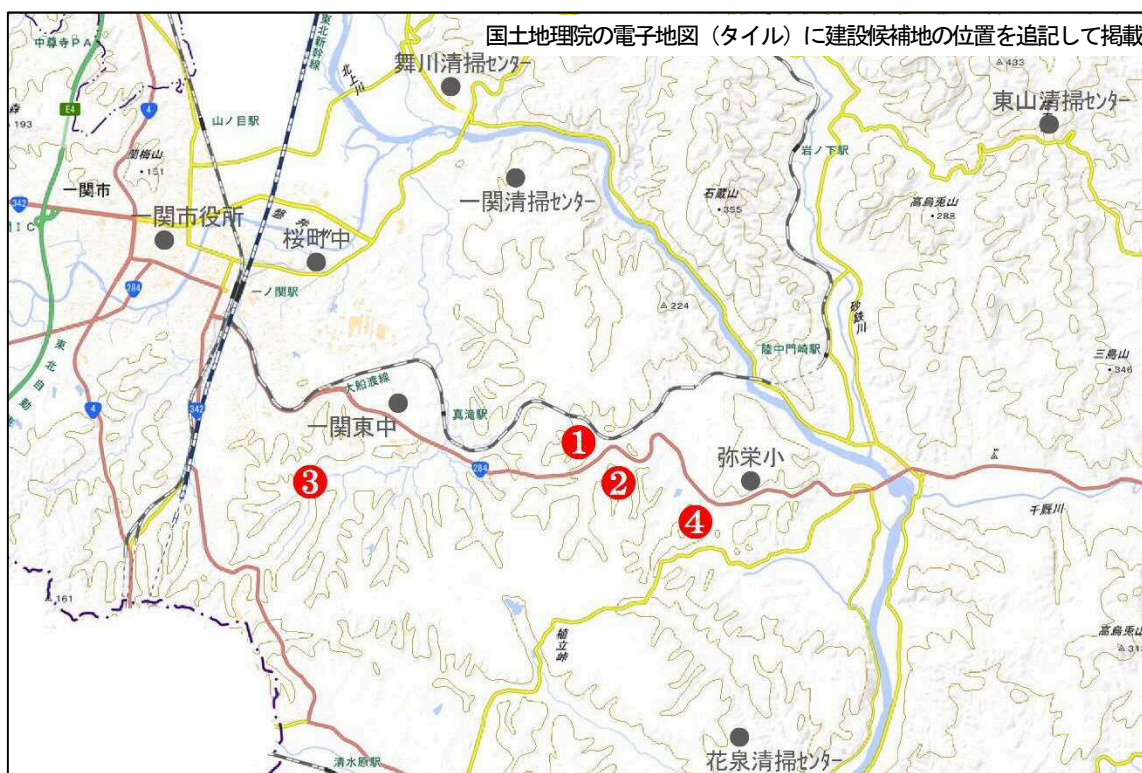
(1) 最終選考候補地の選定

廃棄物処理工学、環境影響評価、地盤工学、動物生態学、植物生態学などの専門家7名で整備候補地選定委員会を組織し、管内全域（一関市と平泉町の全域）から候補地を選定しました。

候補地選定は、3段階で選定を進めました。

区分	内容	絞り込み
第1次選定	管内全域から、法的規制や災害の影響など不適切と考えられる地域を除外（管内面積：1,319.81 km ² ） 条件：24項目	754.27 km ²
第2次選定	アクセス性やインフラ整備の優位性、人口分布等の諸条件により、候補地を絞り込む 条件：17項目	19か所
第3次選定	技術、環境、経済面などを総合的に評価して候補地を選定 条件：8項目	4か所

最終選考候補地の位置図



①	一関市滝沢字石法華ほか
②	一関市滝沢字道目木ほか
③	一関市真柴字堀場ほか
④	一関市弥栄字一ノ沢ほか

(2) 建設候補地の絞り込み

一関市、平泉町及び一関地区広域行政組合の職員で施設整備検討委員会を組織し、候補地選定委員会で選定した4か所の最終選考候補地から1か所への絞り込みを行いました。

① 評価項目

候補地の絞り込みのため、施設整備基本方針に基づき次のとおり評価項目を設定し、候補地を評価しました。

基本方針	評価項目
① 安定性に優れた安全な施設	受電環境 給水環境 配水管までの距離 亜炭採掘鉱区 配慮を要する構造物 土質
② 環境に配慮した施設	交通量 交差点位置 取付道路 景観との調和 自然環境への影響 生活環境への影響
③ 廃棄物を資源として活用できる施設	資源の活用先との距離
④ 災害に強い施設	想定される自然災害の種類 施設建設の阻害要因
⑤ 経済性に優れた施設	造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費 運転管理費 収集運搬費
⑥ その他	総合計画・土地利用計画との整合性 協働による地域づくり 利用者の利便性 想定地権者数 想定筆数 文化財

※ 「評価項目名」は定量評価の項目、「評価項目名」は定性評価の項目

② 候補地の評価

基本方針(評価区分)	候補地			
	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
① 安定性に優れた安全な施設	○		△	◎
② 環境に配慮した施設				◎
③ 廃棄物を資源として活用できる施設	□	□	□	□
④ 災害に強い施設	□	□	□	□
⑤ 経済性に優れた施設	□	□	□	□
⑥ その他	◎	○	○	◎

◎ : 最も優位とした候補地
○ : 2番目に優位とした候補地
△ : 3番目に優位とした候補地
□ : 優劣はないと評価した区分

各区分の評価を総合した結果、優劣がないと評価した評価区分を除く他の評価区分で最も高い評価を得た「弥栄字一ノ沢ほか」が最適であると評価しました。

3 施設の概要

(1) 施設の処理方式（案）

処理方式の検討のため、施設整備基本方針に基づき、次のとおり各処理方式の評価を行いました。

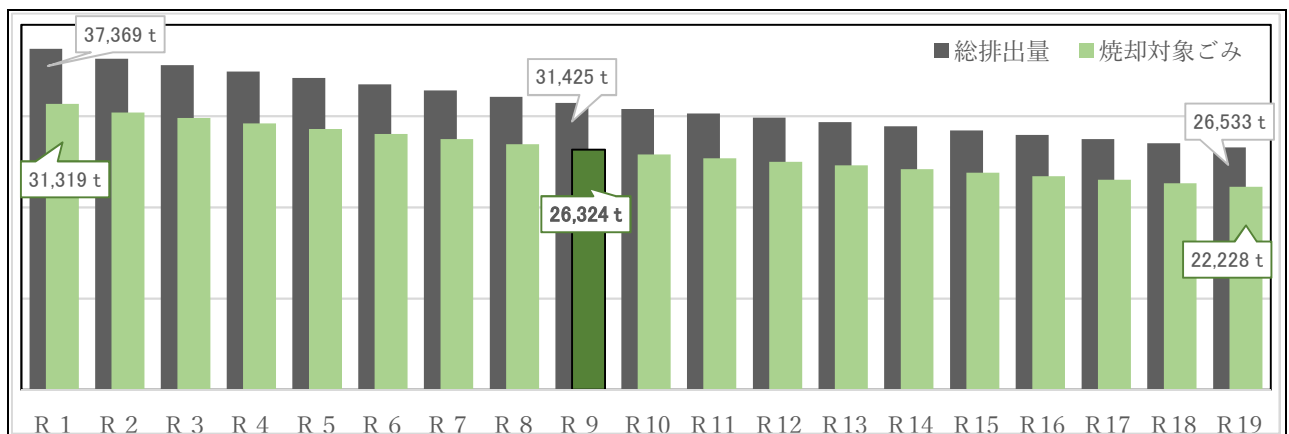
基本方針 \ 処理方式	焼却+溶融方式			非焼却方式				
	焼却	焼却+灰溶融	ガス化溶融	炭化	ごみ燃料化	トンネルコンポスト	高速堆肥化	バイオガス化
① 安定性に優れた安全な施設	○							
② 環境に配慮した施設	○						○	
③ 廃棄物を資源として活用できる施設	○	○	○					
④ 災害に強い施設	○	○	○	○				
⑤ 経済性に優れた施設	○		○					

各処理方式を比較した結果、「**焼却方式**」が優れた処理方式と評価しました。

これに加え、堆肥化など、資源化率の高い処理方式の付加的な導入について引続き検討していきます。

(2) 新処理施設の施設規模（案）

① ごみの総排出量・焼却対象ごみの将来推計



② 施設規模

施設規模は、施設の稼働開始目標としている令和9年度の焼却対象ごみの推計量を基に、過去10年間の災害廃棄物の処理量を加えて計算しました。

1日当たりの平均処理量	実稼働率	調整稼働率	災害対応加算	施設規模
$(26,324\text{t}/\text{年} \div 365\text{日}/\text{年})$	$\div 0.767$	$\div 0.96$	$\times (100\% + 7.6\%)$	$\div 106\text{t}/\text{日}$

1日当たりの平均処理量：年間処理量の日量換算値
 実稼働率：設備の補修・点検などで処理を停止する期間を考慮した稼働率
 調整稼働率：設備の一時停止などによる処理能力の低下率
 災害対応加算：過去10年間の最大災害廃棄物処理量の令和9年度処理見込量に対する割合

4 今後の予定

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事業内容	生活環境影響調査・基本設計など			建設工事			稼働開始